新教出版社 出版通信

2016年
12月

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1　Tel: 03-3260-6148　Fax: 03-3260-6198
ホームページ：http://www.shinkyo-pb.com

十字軍とイスラーム世界

神の名のもとに戦った人々

ロドニー・スターク著／櫻井康人訳

十字軍とは何だったのか？

［刊行がひと月延びたため再掲します］

『キリスト教とローマ帝国』で著名な宗教社会学者が、西洋帝国主義の嚆矢とされる通説的十字軍像を歴史的に再検討し、その宗教的動機や社会的背景に迫った興味の尽きない話題作。緻密な分析から、中世世界の心性と、「聖地」をめぐるキリスト教世界とイスラーム世界の衝突の真相が浮かび上がる。

◆四六判・384頁・本体3200円

ロドニー・スタークは、カルト研究等で著名な宗教社会学者。1934年アメリカ・ノースダコタ州生まれ。UCバークレーで学位を取得。長くワシントン大学とベイラー大学で教鞭をとった。30冊以上の書物を精力的に発表している。

【目次】

序　章　胄を身にまとった貪欲な野蛮人たち？
第一章　ムスリム侵入者たち
第二章　キリスト教世界の反撃
第三章　ヨーロッパの「無知」対イスラームの「文化」
第四章　巡礼と迫害
第五章　十字軍士の召集
第六章　東に向けて
第七章　血みどろの勝利
第八章　十字軍国家
第九章　十字軍国家防衛のための苦闘
第一〇章　エジプトに対する十字軍
終　章　打ち捨てられた使命

■同じ著者の好評既刊

キリスト教とローマ帝国

小さなメシア運動が帝国に広がった理由

穐田信子訳・松本宣郎解説　◆四六判・306頁・本体3200円

人生を聖書と共に

リチャード・ボウカムの世界

リチャード・ボウカム／マーク・エリオット／伊藤明生／岡山英雄
山口希生／浅野淳博／小林高徳／横田法路／遠藤勝信　共著

◆四六判・上製・120頁・本体1600円

傑出した神学者の主要作品を道案内

ボウカムは、新約聖書学から組織神学、キリスト教倫理にいたる広範な領域で開拓的な業績を上げてきた超人的学者である。本書の巻頭には、そのボウカムの信仰自伝「人生を聖書と共に」を配し、続いてボウカムの膨大な仕事から主要作品を7点取り上げ、内容と意義を解説。執筆者たちは著書を通して、また学位論文の指導を受けるなどして、ボウカムから深く学恩を被った者たちである。今年11月に古希を迎えて来日する教授への感謝を込めて編まれた献呈論文集。格好のボウカム入門であると同時に、聖書神学の最先端を垣間見ることのできる書である。

【目次より】

人生を聖書と共に　リチャード・ボウカム
リチャード・ボウカムとはどういう人か　マーク・エリオット
『ユダ書と初期キリスト教会におけるイエスの家族』　伊藤明生
『預言の頂点――ヨハネ黙示録の研究』　岡山英雄
「分かれ道――何が起き、なぜ起きたのか」　山口希生
『イエスとその目撃者たち――目撃者証言としての福音書』　浅野淳博
『イエスとイスラエルの神――「十字架につけられた神」と新約聖書における神としてのキリスト論』　小林高徳
『他の被造物と共に生きる――緑の聖書解釈と神学』　横田法路
『栄光の福音書――ヨハネ神学の中心主題』　遠藤勝信

■同じ著者の好評既刊

イエスとその目撃者たち

目撃者証言としての福音書

浅野淳博訳

◆A5判・656頁・本体7600円

イエス入門

山口希生／横田法路訳

◆四六判・200頁・本体1900円

12月以降の出版予定から

永本哲也／早川朝子／山本大丙ほか
旅する教会
宗教改革と再洗礼派

再洗礼派はルター派、カルヴァン派双方から異端とされ弾圧されたが、その福音理解や社会参与は近現代の社会に大きな影響を及ぼした。宗教改革500年をたんなる主流派の顕彰に終わらせないための、9人の若手研究者による共同研究の成果。

◆四六判・予価2500円

ユルゲン・モルトマン著／福嶋　揚訳
希望の倫理

64年に『希望の神学』で衝撃的デビューを果たした著者が46年後に、これまでの神学的営為の総決算とも言うべき書を書き上げた。いま真の希望のありかを指し示す21世紀の倫理。

◆四六判・予価4500円

ヴィクター・ファーニッシュ著／焼山満里子訳
第一コリント書の神学

パウロ研究の第一人者が、「パウロの神学」を安易に語ることを戒めつつ、伝道者・「使徒」として走り抜いた彼の、第一コリント書に込めた独自の目標・特徴を手堅く綿密に検討する。

◆四六判・予価3500円

● 10月に出た本と雑誌

ロゴセラピーのエッセンス
18の基本概念

V・フランクル著／赤坂桃子訳

『夜と霧』英語版に付した貴重な入門論文。18の基本概念をコンパクトに解説。日本の現場でロゴセラピーを実践する精神科医らの解説を付す。

◆小B6・本体1850円

島の小さな教会

多摩美術大学環境デザイン学科編著

瀬戸内海に浮かぶ直島の教会堂のコンセプトを美しい写真と文章で紹介します。地域に根ざした伝道と教会建設のあり方を多くの人々と考えていくために、ぜひ手にとっていただきたい作品です。

◆B5判・本体2000円

合同教会の「法」を問う
北村慈郎牧師の戒規免職無効確認等請求訴訟裁判記録

◆B5判・本体1700円

福音と世界
11月号―特集　聖書と映画

寄稿者：木谷佳楠、服部弘一郎、富田正樹、久世そらち、中村吉基、芦名定道、金必順、内田樹、佐藤優、辻学、月本昭男、木原葉子、一色哲、吉松純、釘宮明美ほか

◆税込635円

●今月出るロドニー・スタークの書は、十字軍という現象を、7世紀にまで遡る対イスラーム関係の前史から説き起こし、13世紀の終焉に至る長大な過程の再検討を通して、いささかステレオタイプ化されたネガティブな十字軍イメージを修正しようとした問題作。著者は信頼できる学者ですが、キリスト教の出版社としては慎重に取り組むべきだと考え、専門家のセカンドオピニオンを仰ぎました。歴史をどう見るかということについてさまざまなことを教えられる好著だと思います。

●小社で『イエスとその目撃者たち』や『イエス入門』などすでに3冊の訳書が出ているリチャード・ボウカム教授が今年古希を迎え、11月に来日します。これを記念して教授のお弟子さんたちが献呈論文集を企画しました。教授の膨大な業績から特に重要な7点を取り上げて解説し、ボウカム入門となると同時に現在の聖書神学の動向への道案内ともなる内容です。巻頭には教授の信仰的な自伝が置かれています。

●毎年ご好評をいただいている渡辺禎雄版画カレンダーの2017年版ができあがりました（本体500円）。テーマは「聖母子」（1991年作）。幼子を抱くマリヤの長い指が印象的な晩年の傑作。鮮やかな黄色地の上に描かれています。キリスト教専門書店でお求め下さい。なお毎年恒例の「渡辺禎雄型染版画展」が丸善・丸の内本店で開催されます（1月11日～17日）。実作を鑑賞できる貴重な機会ですので、ぜひ会場にお運び下さい（版画はもちろんのこと、カレンダーや画集もお求めいただけます）。

福音と世界

2016年 12

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8460円

特集：降誕物語をどう読むか
――聖書解釈の視座と方法

新約聖書解釈への招き――特集解題 ……廣石　望
低き幼子イエスへの招き――歴史的・批判的研究による解釈 ……木原桂二
すべての人が招かれる教会の予告編――社会科学批評による解釈 ……大宮有博
飼い葉桶の中の子――物語批評による解釈 ……東よしみ
マリアのクリスマスの回復――文化研究批評（ジェンダー・セクシュアリティ研究）による解釈 ……小林昭博
うたい続けよう、天使の歌を――説教・教会の礼拝で読み、語る ……平野克己

【連載より】
◆アメリカの神学と教会のいま 2 ……吉松　純
◆現代神学の冒険 3 ……芦名定道
◆新約釈義　第一テモテ書 10 ……辻　学
◆聖書素読 12（最終回） ……金　必順
◆消しゴム点描 12（最終回） ……望月麻生
◆ドイツ教会通信 11（最終回） ……秋葉睦子
◆レヴィナスの時間論 21 ……内田　樹
◆詩篇の思想と信仰 140 ……月本昭男